

# サロン・あべの

<サロン・あべの>NO. 31 平成 元年 1月21日(土) 発行

<サロン・あべの>十二月の出会い

## ときめきのクリスマス



早々と木枯らしが吹いた冬の始まりであったが、「ときめきのクリスマス」の集いが持たれた昭和六三年十二月三日(土)午後一時〜四時は、明るい陽差しと参加された方々の熱い思いが交差して、会場である育徳コミュニティセンターの研修室は、暖房いらずとなり参加者二六名は、ちよつと早いめのクリスマスを楽しんだ。

この日 委員は、十二時から準備の為に集った。いつもの研修室をクリスマスムード溢れる出合いの場とする為に、持ち寄りのクリスマスグッズで飾る。ホワイトツリーに赤や青、金色のカラーボールを付け、金銀のモールを飾る。黒板にはサンタクロースの微笑む壁飾りと、モミの木の壁飾りが貼られ、周囲には、色紙で作った輪飾りがご愛敬をかもしだす。机や椅子を周囲に並べ中央に舞台らしき空間を造る。買い整えられた飲食物は、手分けして袋詰めをする。そうこうしているうちに時間がどんどん過ぎて気がきではなくなってきた頃、いつの間にか出席者の方々もお手伝いに加わって下さり、サロン手作りのクリスマスカードが出来上っていった。

「ときめきのクリスマス」は、旭純子さんの司会で幕が明けられ、柿岡忠氏の乾杯

の言葉でシャンパンの杯が干され、一同和やかにうちとけた。まずは、用意されたサンドイッチと果物・ジュース等で腹ごしらえをしながら、クリスマス・ソングが静かに流れる中しばし歓談。

その後、二組に分かれてゲームやクイズで遊ぶ。

ゲーム「太郎さんと花子さん」と「ゼスチャード、動物が仕事の表現」では、ゼスチャードが入る。「太郎さんと花子さん」は各班から選出された女性と男性が、司会者の指示どおりに動かないことがルールになっているが、優しく司会者から「太郎さん・・・」「花子さん・・・」と声をかけられると「わかってはいるけど・・・」言われたとおりに動いてしまい、思わず笑いが生まれてくる。

次に全員参加の「かくれんぼゲーム」は、みんなの頭の中でそれぞれが研修室のどこかに隠れる。それを相手方の班長さんに当てていつてもらい点数を競う。机の下、カバンの中、椅子のうしろ、カーテンの陰等、答えは一般的であったが、中にサンドイッチの間とか、時計の針の裏に隠れた人がおり、そのユニークな場所に感心する。



クイズは、漢字と数字の二通り。

カードの漢字を見て、別の言葉を連想する。例えば「車に点(・)」答えは「カーテン」、「不幸幸」答えは「不幸の中に幸が入り、不幸中の幸い」となり難度が高い。数字のイメーシクイズは、算用数字を並べて読んでいく。「一九三」で「一休さん」「二三八」でチェッカーズの「郁弥」という。これには、岡崎美智枝さんよりサロン・あべのへと下さった手作りの可愛らしい「しおり」が正解者に贈られた。

「ときめきのクリスマス」の名にふさわしく「今年の思い出」や「他己紹介」の人選には、大型のサイコロを振り、その番号（受付で渡したカードに付いている）の人に出てきてもらい話をしていただいた。川

辺貴久さんと山本篤江さんからは、京都国体に出場し活躍された思い出が語られた。

赤い MIKI HOUSE の親子ペアルック姿を他己紹介された上平幸雄さんは、今年（六三年春）パパになった喜びを体中から溢れさせていた。

そして、恒例のみんなの手話をしながら歌うクリスマスソング「赤鼻のトナカイ」「手のひらを太陽に」等を次々と歌っていく間に、赤い服のサンタクロース（大島功さん）が大きな白い袋をかついで入ってくる。順番に手渡されるプレゼントは、交換用に参加者が持参された品物ではあるが、サンタクロースの手から受取るプレゼントは、童心を呼びさます効用があり、思わず顔がほころぶ。

栓抜きが無くて飾り物になっていた寄贈のワインと、クリスマススムードを盛り上げてくれていた手作りのカラーソック、余分になったプレゼント等々をサイコロ福引きにして、当たった方々にお持ち帰りいただいた。

上平幸雄さんより閉会の挨拶があり、お互いにうちとけた親しみに名残りを惜しみつつ、来年の再会を約束して散会した。



初めてサロニアでの  
のクリスマスに参加し  
て本当に楽しかった  
です。来年も皆様  
との出会いを楽しみに  
しています。  
63.12.3 山村香司

いまは いましかない  
いまは 帰って来ない  
いまを 大切に生きよう  
八十年を百数にすると  
二万九千二百日  
秒にするると二十五億二千二百六十秒  
そして今もその秒は確実に刻まれて  
二者と通ぬ今という道を往く、  
小苗 葉

今年も皆さん一緒に  
歌やゲームを楽しく  
事が出来て、よかったです。  
高尾澄男

すてきなクリスマス  
たのしかったです。  
平 初子

おかげさまで楽しく時を  
すごすことが出来た  
今後よろしくお願ひ致します。  
T.K.

参加させていただいて  
楽しいひとときでした。  
ゼスチャーが目が見えな  
くて 解りにくかったの  
で そのことも又、考え  
ていただきたいと思いま  
す。 馬越 郁栄



京都府身障者団体での  
大会で金メダルを獲得した  
山本篤司君のお話と、  
川辺さんのお話、  
感謝の気持ち、  
来年の大会への活躍を  
祈ります。  
今年も楽しい会合ありを有難  
ひお礼します。  
松田

来年もみん様  
"まますように!"  
ほしげ。

司会 区まかせられ  
まますにたからの進行でした。  
でも ミサベの酔いもあって  
途中から 大いに好評外  
ふるまっていました。  
やっぱり サロニアのクリスマスは  
おもしろい。来年は エキスパー  
ゲームを視障の方々のために応用  
して...方法を考えた。い。2。可。  
旭純子

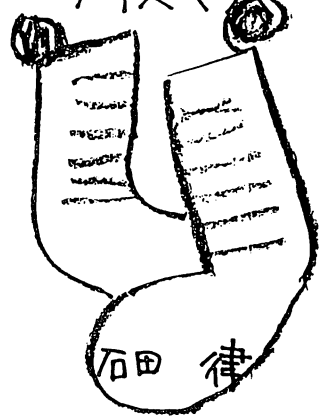
今年も楽しいクリスマ  
スを有難うございました  
明るいまみなさん 勘の  
よい皆さんにふれて 古  
びた私の頭も潤滑油を入  
れていただきました。司  
会の旭さん 本当に御苦  
労さまでした。  
金子花江

いつもの事ながら、年齢どおり変わりばえせず、体の調子もよくなかったので来年は、若返りが希望です。 大島 功

Merry Christmas!

毎年、少し早目のクリスマス  
コンパニクマは歳末の  
気分も いそひとフ...  
来年も よろしく...  
河合 恵子

ときめきの  
クリスマス



楽しいクリスマスパーティ  
でした。来年は、もっと  
楽しいクリスマスパーティを  
やろう。本当にありがとう。  
T. KAWA BE.

初めて参加さ  
してもらいました。  
又、参加したいと  
思います。

中浦真里雄

来年も 一生懸命生き  
ていきます。

来年も あつかましく  
行くぞ。

今日は一日楽し  
かったです。又、来年  
も、よろしくお願  
いします。

中西 利香

楽しい、出会いを  
ありがとう。  
みんなで作りサコン  
です。今後、よろしく  
お願い申し上げます。  
とみこけいこ

寒い、暖かい  
でも、やはり寒い、と寒い  
風邪の流行が心配です。  
いつも、  
声と笑顔だけの会合で  
もうオビ今年も終りにあ  
土曜日も仕事のため  
おのれ、声をかけよう  
12月25日、おめでとう  
来年  
寒い日、おめでとう  
皆様には  
お礼を  
お礼を  
お礼を  
お礼を  
お礼を  
お礼を

来年も、たのしま  
せて下さいませ  
司令のうに、おのれ  
になり、ありがとう  
ごさいます。

中本光子

楽しいクリスマスの集いに  
参加させて頂き有難うござ  
いました。クリスマスが  
残念でした M.K

<p>サロンのクリスマスは、 初参加でしたが、 楽しかったぞう。 社員の皆様もクリスマス 本当にどうもありがとうございました。</p>	<p>とても楽しかったです サンドイッチもおいしか ったし…来年もがんばっ てちよん! M. T.</p>	<p>With all good wishes for Christmas and the New Year  To Keiko. Happy Christmas from Margaret Bowler. England</p>
<p>来年も平々ほん々と友達 を増やしたい。</p>	<p>司会の旭エムの上手な お話で、楽しくさせて いただきました。ありがとう  安達尚子</p>	<p>来年も新しい 事いろいろ しよう。  アツシ</p>



クリスマス会の日にみなさんにいただいたメッセージや、サロンに送られてきたクリスマスカードを掲載いたしました。自筆や代筆でいただいたものをそのまま縮小したものですが、印刷で出にくいものはワープロで打たせていただきました。(敬称略・順不同)

日々のよろこび添えて  
△サロン・あべのVに贈るLED灯  
十二月のカンパ合計 九〇〇〇円  
ありがとうございました。

おしらせ

△サロン・あべのVの2月の出会い  
日時 平成 元年 二月一八日(土)  
一時〜四時(予定)

内容 「職人生活と第五福龍丸展」  
大阪人權資料館(06-561-5891)

集合場所 育徳コミュニティセンター  
支関前 十二時三〇分集合  
(バスはあびこ筋西田辺駅北100mに駐車)

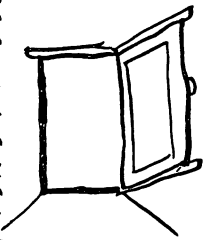
会費 三〇〇円

申込み 二月一〇日迄に ☎06-691-1028  
(富田慶子へ)

# なんとか してやる

富田慶子

## 重たいドア



最近の主な建物には、たいがい自動ドアが付いていて何の気なしに出入りしていますが、たまにそれが無い所があると、私にとってこのドアの開閉は大変な重労働となつてきます。

私は松葉杖をつけていますが、手の力がとても弱いのでいつも困っています。まずドアのノブが握りにくいのです。なんとか

## 善意的解釈について

「善意に解釈する」という言葉がある。そこには、ひとつの人間の行為については肯定的に解釈すること、否定的に解釈するといふ二つのことが可能であり、そのうちの肯定的な方を取るべきであるという考え方があろうだ。

このような考え方をする人は、わりあい多いのではないかと思う。例えば、少ししやべりすぎるひとを「明るくて話好きな人だ」と思ってしまう人がいる。冷静に見れ

握っても回す力が弱いから、なかなかカチツと音がしません。やっとのことでノブが回りドアに隙間が出来ると先ず、松葉杖を一本挿しこみ、再び閉まるのを防ぎながら肩と肘とでドアを押し、一歩ずつふんばって滑り込むようにして入っていきます。たいがいには、内外にいる近くの人が見かねて手を貸して下さいますので、不自由はしていませんが、困るのは一人の時です。一回二回で出来ずに、くたびれて中休みをする

ば、そのひとがある種の不安にかられて、さかんに話していることは明らかなきでも、そのように解釈してしまうのである。

悲しみの感情を出すことができなくて悩んでいる人を見て、「自分の感情と闘っている、耐えているのだ」と妙にひどく感心したり、周囲の人への信頼感をなくしてしまつて孤立している人には、「独立心の強い人だ」と見当ちがいの見方をしてしまうのである。

ほくのまわりには、将来、社会福祉の仕事をしていこうとする学生さんが多いのだ

時もあります。それでも、押して入るドアは体全体の力でなんとかなりますが、手前に引くドアは本当に困ってしまいます。

特に重いドアは、百貨店、郵便局、銀行等、それにホテルの室や各センターの室への出入り口のドアです。どうしてもこんなに重いドアが必要なかと、いつも不思議に思っています。後始末が悪いから自動的に閉まるようになってくるのかもしれませんが、軽いドアの所でも開きつ放しということが無いところを見ると、出来ないことはないのではないかと思うのですが・・・

「おもたういドア」なんとかならないでしょうか。

が、そういうひとたちが、そのような解釈をしている場合、ぼくはいちいち、それを訂正するようにしている。このような「善意的解釈」は、しばしば人を援助する仕事にとつてはマイナスに働くことが多いから





である。

ところが、そういうほくの態度に反発を示すひとが、けつこう多いのである。「どうして、そんなに冷たいもの見方ができるのか、信じられない」とか、「人間を悪い方、悪い方に解釈するのはなぜなのか」とか、ときには「それが社会福祉を専門にしているひとの言葉とは思えない」と言われたこともある。あまりに分析的で、冷酷なかんじがするのかもしれない。

しかし、不安にかられて多弁になつていくひとを「話好きなひとだ」と考えていては、そのひとの不安を援助することはでき

ない。悲しみの感情を出せないで能面のような顔をしている人を、「悲しみに耐えている健気なひと」と思つていては、その感情にかかわることはできない。孤立しているひとを「独立心の強いひと」と誤解しては、その人との関係はできないのである。

親と子どもの関係もそうだろう。子どもが夜遅くまで帰つてこないのを、「親から独立したのだ」とか、「子どもは子どもで自分の世界をもちはじめた」などと、良いように解釈するばかりでは、親と子の溝はますます深くなるばかりだ。

#### 大阪のろうあ運動

大阪のろうあ運動は、「日本聾啞協会」大阪支部に始まるが、第二次世界対戦により中断し、昭和二十二年「大阪聾啞協会」の復活をもつて再開された。復活当初の大阪は、「全日聾連」初代会長藤本敏文氏のお膝元として、全国の運動の先駆を担っていた。昭和二十四年には「大阪聾友協会」が設立され、近畿聾啞連盟、全日聾連にも加盟して、七年間の「二団体時代」が続くが、昭和三十一年、「社団法人大阪ろうあ協会」として合併した。

運動内容としては、昭和四十二年に対府、市交渉の際、「社団法人大阪ろうあ協会」執行部が独自に要求書を提出、四十三年、立会演説会に手話通訳を付け、四十五年には、「ろう者の生活と権利を守る会」と協力して、「大

大切なことは、ありのままの事実を認めることである。ひとりのひとの行為が、たとえそのひとの弱さや欠点をあらわしていても、それをそのまま認めることが大切なのである。

人間に対するあたたかい目は、人間の弱さや欠点をも見つめるのである。いや、むしろ人間の弱さや醜さを見るところから、「人間愛」は生まれてくるのかもしれない。人間に対する本当のあたたかな感情は、人間の弱さや醜さをも包みこむ。ほくたちが安心して身をまかせることができるのは、そういう愛情なのである。(知)

阪ろうあ会館建設実行委員会」を結成、大運動展開の末、五十二年には現在の「大阪ろうあ会館」の創設をみている。その後、昭和五十年「大阪手話サークル連絡会」、「大阪手話通訳問題研究会」が設立され、五十四年からは「大阪ろうあ協会」と「三団体会議」を持つてサークル活動、通訳運動、ろうあ運動の連携を図っている。

ろうあ運動は、ろうあ者を取り巻く社会がろう学校集団から、手話通訳者集団、そして一般健聴者へと拡大する歴史的過程であるといえる。それはまた、忍従から、ろうあ者相互の連帯として通訳者との連帯と並行して、権利剥奪の意識化、権利追求、権利獲得へと向かう発展の過程ともいえるよう。

イギリスから



145<sup>A</sup> Carlton Hill,  
Carlton,  
Nottingham  
England  
14/12/88

Dear Keiko,

I have kept your letter safe since you wrote to me in MAY 1988. I have given paper dolls to people who are handicapped with MYOTONIC DYSTROPHY.

We are preparing for Christmas. We celebrate the Birth of Jesus Christ. All people have a holiday for a few days on Dec. 25-26. I look after new born babies in the home, a very pleasant work, and very busy.

Today I have heard my son Ian (2 yrs) has passed his doctors exams. A very happy Christmas Best wishes. Margaret Rowley (Mrs)

慶子さん

1988年5月にわたし宛に書いて下さったあなたのお手紙は保管しています。紙人形は筋ジストロフィーの患者さんたちに差し上げました。

わたしたちはクリスマスの準備中です。わたしたちはイエス・キリストの誕生をお祝いします。

12月25日、26日ごろ、みんな数日間の休暇をとります。わたしは家で生まれたての赤ちゃんの世話をしていますが、これはとても楽しい仕事でもあり、また大変忙しいものです。

今日、息子のイアン(2才)から医者  
の検査にパスしたことを聞きました。  
幸せなクリスマスを。

心より祈ります。

マーガレット・ボレー

謹んで 新年のご挨拶  
申し上げます

申し上げます

昭和六四年の元旦は、十四年ぶりの小雨模様で明けましたが、それもすぐに止んで穏やかな暖かい新年の始まりとなりました。皆様には、どのようなお正月を お迎えになられましたでしょうか。

この一年が皆様にとって、ご健康とご多幸の年でありますようお願い申し上げます。昨年中は、なにかとご厚情を賜りまして、ありがとうございました。

おかげ様で、△サロン・あべの▽は三回目のお正月を迎えることが出来ました。

障害者と健常者の出会いの場作りをして、そこからお互いの理解と助け合いが生れ、共に同じ社会に生活している仲間であり、隣人とうしであるという認識を育てていきたいと希って発足した会です。その出会いの持ち方は試行錯誤の連続ですが、ご参加下さる方々のご支援、ご協力により、学ばせていただき、育てていただきました。参加して下さる方も回を重ねる毎に新しい顔が加わり、機関紙である△サロン・あべの▽紙の購読を希望して下さる方々も増え、



委員一同喜んでおります。が、時として健常者の方から「参加しても、何もする事がないので遠慮させていただく」との声を、お聞きすることがありハサロン・あべのV運営委員会としては、力不足を痛感し、反省をしております。

参加される障害者の方々からは、健常者の方々と率直に話しあえる機会を得られたとの声を聞いていますので、参加される健常者の方々には異端のない立場で話しあっていただけだと願っています。障害者にとって何の利害も負いめもなく、率直に話しあえる機会はそう多くはありません。健常者の方々に介助的なお力を貸していただくことは、欠くことの出来ないことですが、それと共に必要な事は社会性を持つことではないかと思うのです。それを養い育てていけるのは、豊かな社会生活を経験されている健常者の方々の一言だと思い、ハサロン・あべのVでの出会いを大切にしたいと考えています。又、参加下さる健常者の皆様には障害者の声を広く外へ伝えて下さるメッセンジャーとしての役割も持っていただけたらと、多くの希いを持っています。どうぞ、ハサロン・あべのVの趣旨をご

理解下さいまして、毎月の出会いにご参加下さいませよう。お願い申し上げますと共に、本年もご支援、ご協力をいただけますよう、皆々様にお願い申し上げます。

ハサロン・あべのV運営委員会  
一九八九年 一月

## 初夢

夢の家

つい、この間まで「私の夢の家」は、赤毛のアンが住んでいたグリーンゲイブルスであったが、ハサロン・あべのVでこの年度「家」をテーマにして車イス住宅訪問記や一般マンションを改造して生活している車イス夫婦の記事等を知るにおよんで、その考えが色あせてきた。夢を夢として見るのではなく、夢を実現させる為に様々な努力と工夫を重ねて自分の生活を築いておられる事を知り、希望目標的な「夢の家」を今年の初夢として考えてみた。

現在の家は、便利で住みやすいとは決して言えないが、生れ育った小さな空間の居ごこちはよい。そこへあれこれ注文を付ければ快適な住いとなると思うが、ハサロン・あべのVを基本にして考えると話は違ってくる。ハサロン・あべのVの活動拠点となる場所が欲しい。サロン紙、サロン活動の資料等も三年目になると量的に目立ってきた。それが、机や本棚に収まりきれなくなってきた。紙袋に入れて目につく所、手の届く所に置いてあるが、家人には不評。専用のロッカーが欲しいが、それを置く場所がない。許容範囲内は私の机とワープロ台周辺であるが、それだけでも大きな存在感を持っているので今後のことを考えると頭が痛い。ハサロン・あべのVの活動を長く続けていきたいと希っている現在、手の届く所に、いや、電動車イスの行動範囲内にハサロン・あべのVの拠点となる集いの場所が出来て欲しいと思う。今、月一回の出会いの場は育徳コミュニティセンターのご厚意により研修室を使用させていただいているが、前述の兎小屋事情がハサロン・あべのVの「夢の家」を夢見てしまう。

福祉関係・障害者関係の本や、地域の機

関紙・広報等も手元が増えてきた。委員の間では回覧等もしているが、出来ることならそれらを本格的に揃えたい。そして、サロンに参加下さる方、障害者や地域福祉に感心を持って下さる方々に利用していただけたらと思う。又、それらを介して各人の交流や学習の場所として集い合えれば素敵だと思う。「三六五日 来訪歓迎」の看板を掲げられたらハサロン・あべのVは、本来の役目を持つことになるのではないかと思う。土一升・金一升と言われる以上の高嶺の花となっている世情を考えると、地域内に専用の場所を持つことは、夢と言えどもバカ気ているかもしれないが、どこかに「打ち出の小槌」が落ちているともかぎらない。それを見つけた時あわてて「おダンゴ三つ」なんて言わないよう心づもりだけでもしておきたいとハサロン・あべのVの「夢の家」を希って夢みている。(K)



## 編集後記



クリスマス会も終わり、サロンも年を締めくくりました。みなさまのご協力で数多くのすばらしい出会いを持つことができました。新しい参加者の方も増え、サロンの輪が広がっていくのは嬉しいかぎりです。今回のサロン紙はメッセージをたくさん

いただきましたので、ちよつと字が小さく読みにくくなってしまいましたことをお詫びいたします。でも、これは嬉しい悲鳴。これからもどしどし声をお寄せください。さて、平成元年となった今年の私の目標は毎月の出会いに全参加することです。みなさんもこんな目標はいかがですか。今年もよろしくお願いします。(は)

小川 啓氏、山本ヒサエさんよりお茶受けを、岡 賀寿子、山本敏子さんより切手のご寄贈をいただきました。ありがとうございました。

\* サロン・あべの紙

朗読テープとなる \*

この度、阿倍野区ボランティア連絡協議会朗読グループのご厚意により、今年一月発行のハサロン・あべのV第31号より録音テープに朗読を入れていただくことになりました。

ご希望の方は、ダビングをしますので、空テープと返送料(一七〇円)を添えて、左記までお申し込み下さい。

〒595 大阪市阿倍野区阪南町六一三一二六  
TEL 〇六一六九一〇二八(富田慶子)

<サロン・あべの>第31号

発行日 平成 元年 1月21日(土)

発行・編集<サロン・あべの>運営委員会

[大阪市阿倍野区阪南町6-3-26

電話(06)691-1028富田慶子]

印刷 セルフ社 電話(06)691-2365

[阿倍野区西田辺2-2-10

グレース鶴ヶ丘1.01号]

定価 ¥60.